

地域医療連携室たより

No.24

発行日

2012年5月11日

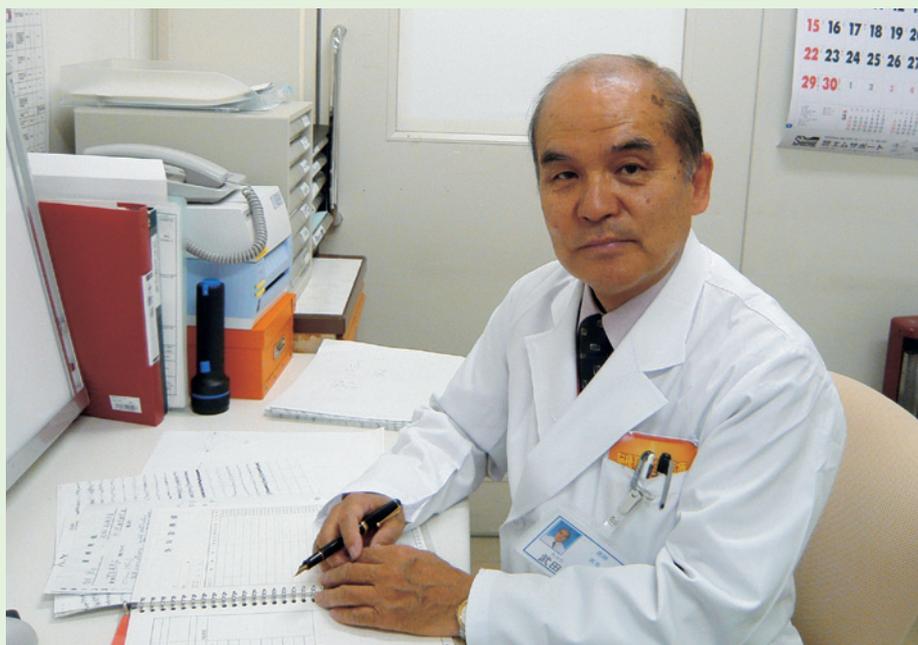
医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第24号

医療連携を軸に

これからは回復期の医療を



脳神経外科

たけだのりお
武田憲夫 医師

- 医学博士
- 日本脳神経外科学会専門医
- 日本癌治療認定機構
がん治療認定医

生まれは東京の世田谷

1947年、東京は世田谷区の生まれ。チャキチャキの江戸っ子、というにはちょっと違う？温厚な紳士です。今年3月山形県立中央病院副院長を辞し、4月から当院に着任しました。

子供時代はザリガニ採り、缶けりに熱中。当時世田谷は、武蔵野の林があちこちに点在し田んぼが広がる自然あふれるトトロの里でした。東京都立新宿高校から横浜市立大学医学部、その後新潟大学脳研究所脳神経外科に入局し新潟で22年、1995年から山形県立中央病院に赴任して17年、そして今年当院へ。

医師をめざしたきっかけは？

高校1年の時、父が胃がんの疑いで手術をしたことです。当時胃がんは死ぬ病気。母親、妹がおり、自分が高校を辞めてでも働き、一家を支えなくてはと思いつめ、悲壮な覚悟をしました。父は助かり、高校を辞めずに済みました。その時、医療の力、すばらしさを実感しました。

脳神経外科を選んだ理由

横浜市立大学の恩師が脳の比較解剖学の研究をしていました。尊敬し、いろいろなことに影響を受けた先生です。学生時代から脳に興味があり、その先生と一緒に脳の研究をしないかと誘ってくださった。しかし、私は基礎研究はむいていないと思い臨床を選びました。そして脳を研究する基盤の整った、新潟大学脳研究所の脳神経外科の門をたたいて入門させて頂きました。

脳外科医としての今まで

脳外科医として手術を数多くこなしてきました。新潟大学では脳腫瘍や小児脳外科グループのチーフとして手術や若い医師の指導を行っていました。県立中央病院ではそれ以外に、脳卒中、中でもクモ膜下出血など出血性疾患の手術を行っていました。出生直後の新生児から80歳代のご高齢の方まで、私の手術範囲でした。また、病院管理職、医師会理事と毎日仕事の洪水で、殆ど毎日帰宅は夜中でした。



病棟にて

患者さんとのつながりで 深く心に残ることは？

特に悪性脳腫瘍の子供さんご両親との心の交流ですね。初め、患者である子供さんは僕を見て泣くんですね。痛いことをされるのではないかと。ご両親も、私に治療を任せて良いものか内心心配顔。当然ですね。でも、充分時間をかけて自分の言葉で説明し理解を頂きます。手術を終え、化学療法のため繰り返し入院し、具合の良いときも悪いときも、何回も診察し、話しをするうち、つきあいは強く深くなり心の繋がりができます。信頼感も芽生え、関係が深まります。中には「お誕生日おめでとう」と毎年僕に手製のカードをプレゼントしてくれる子もいました。でも、この様に心が深く強く繋がった子供が、最終的には再発し亡くなり、お別れすることも少なくありませんでした。大切なお子さんを亡くされたご両親の大きな心の傷は察するに余りありますが、我々にとっても辛い寂しいお別れです。医師の宿命とは言え、何年経っても辛く心に残ります。

これからは、慢性期、回復期の医療を

ある意味、急性期の医療は十分にやったという実感があります。体力的にも、年齢的にも。外科医は手術がうまくなると、いつまでも手術をやりたくなります。でも、有能な先輩が、手術をやり続けることによって起こす失敗を見聞きしてきました。たとえそれまで1,000件手術が上手く行っても、1件失敗してしまうと、それは許されなくなる時代です。

脳外科の手術は技術だけでは無く忍耐力、精神力が要です。年齢とともにこれが衰えてきます。難しい手術になるほど、術前から悩み、手術中にも難しい判断をしなければならず、時間もかかります。くじけそうになり、疲れた、腰が痛いなどとなります。この時、手術を早く切り上げようと思ったら負けです。忍耐力、精神力に限界が出る前の、今が引き際と考えました。

今後は慢性期の医療を行いたいと思っています。

脳卒中についても急性期だけが医療ではない。昔は死亡率から言えば脳卒中が一番高かった。最近では救命率が高くなって死亡率は減ってきましたが、損傷した脳機能の回復が問題になっています。麻痺、失語症、高次機能障害などからの回復です。急性期を知っている者が一緒に携わると、また視点を変えた医療を行うことができる気がします。

スタッフとのコミュニケーションをとるのに大事にしてきたことは？

やはり本音で、心を開いて話をし、お互いの意見を言い合うことでしょう。お互いに相手の立場を尊重し合い、遠慮しない関係が出来れば最良です。その為には自分を磨く必要もあります。個々の患者さんの状況に合わせ、患者さんのために、色々な職種スタッフが心をつなげてチームとして治療に取り組むことが大事だと思います。

県医師会の役員として

県医師会の役員をしていました。医師会のことを開業医の利益団体とかいう人もいますが、そうではありません。日本医師会の会員の半数は勤務医です。山形県医師会は、県の救急医療体制や高度医療などの医療システムの普及向上、県民の健康維持のための方策、医師の教育、行政や多職種との調整話し合いなど、幅広い仕事をするプロの集団です。当院の高橋院長にも、医師会員の生涯教育講座で大変お世話になりました。4月で9年勤めた常任理事を辞めましたが、視野や知識、人の繋がりが広がり、非常に有意義で勉強になりました。

ご家族は？趣味は？

10歳と8歳の孫がいます。3世代同居です。家に帰ると、とてもにぎやか。単身赴任の息子に代わって、孫の教育担当の係りでもあります。

以前は水泳、山登り、スキーなど頭は使わず体を動かすのが趣味。今は体力が無くなり、冬はスキー（坂道を下るだけなので）、音楽鑑賞（もっぱらiPod。好きなときに、短時間でも音楽を聞けるのは最高）、コンピューターいじり（詳しくは無いです。Mac派20年です。たまに家族皆でのビール付きの会食が楽しみ）。

武田先生、気軽にお話しいただきありがとうございます。医療の奥深いところも話していただきました。大ベテランの先生です。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

松柏会 入社式 **がんばれ！フレッシューズ**

日時 2012年4月2日 9:30a.m.～ **場所** 大手門パルズ

当法人皆川榮助理事長より新入職員への挨拶がありました。エッセンスをご紹介します。

当法人は高齢者に対する包括的な医療と介護を行い、地域住民の命と健康を守っています。3つのことを期待をこめて送りたい。

現実を見据え、考え、行動する社会人に

1つは皆さんがこれから活躍する医療と介護の現場は、期待と夢が洋々と開かれている環境ではありません。医療や介護は医療保険や介護保険で賄われますが、高齢化社会や少子化、若者の雇用不安を背景に、政府は社会保障と税の一体改革と称し、財源不足を理由に、支払われる報酬は私たちの労働実態に見合うものにはなっていません。これが、「良い医療と介護を受けたい、したい」という私たちの現場に大きいのしかかっていることを忘れないでほしい。

「人権を守る」をキーワードに技術の習得を

2つ目は医療と介護の技術は急激に進歩しています。遅れることなく、先駆ける意欲をもって励んでほしい。法人として取り組みは積極的に奨励します。同時に研究や技術等を患者、利用者にとってどう活用するかしっかりと気概をもつことが大事です。キーワードは「人権を守る」です。憲法で保障している生存権や健康権といった人権保障をどう実現していくか、この本質的な問いかけを忘れずに、技術習得してほしい。

チーム医療を軸に

3つ目は職員相互間の集団性の問題です。医療と介護は多くの有資格者が各専門性を発揮し、連携して、患者、利用者に対応します。互いに役割を理解しあい、同一職種内、多職種間が価値観を共有しあうという高度な集団性が求められます。互いが自己を表現でき、受け入れ、理解をしあう人間関係の形成が求められます。同世代の連帯感、職場での上司や先輩と信頼しあう人間関係、多職種間の仲間づくりを大切にしてください。

私たちの職場に就職したことが、皆さんの人生にとってかけがえのないものになっていくことを祈念します。お互いがんばりましょう。



「至誠堂総合病院 第7回地域連携交流会」開催

テーマ 「高齢者における誤嚥性肺炎の栄養管理」について



3月8日（木）午後6時30分から第7回地域連携交流会が大手門パルズにて開催されました。300名を越える参加があり、盛会のうちに終了しました。以下、アンケート抜粋です。

- 胃ろう造設に関して賛否あるなか、経口摂取の大切さを実感した。
- 様々な立場からの発言があり、わかりやすい内容で、日常業務にすぐいかしていきたい。

- 「在宅の力」、「日常の力」は衝撃的だった。
- 高齢者における、栄養管理の早期介入の必要性がわかった。

シンポジウムに引き続き、懇親会もなごやかに行われました。詳しい内容については、次の「地域医療連携室たより」でお知らせします。



我が街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 ⑭



香澄堂書店

営業時間：10:30～19:00
定休日：毎週月曜／水曜

山形市旅籠町一丁目1の2 霞城ハイツ1F

TEL 023-632-5315

<http://www.ne.jp/asahi/kasumi/book/>

◆本間修さんに聞く

2005年3月に開店。8年目にはいります。東京からUターンしたのがきっかけです。店内にはきれいにコーティングされた本が並びます。山形県史などを扱った専門書も多く置いてあります。ヤフーオークション、アマゾンなどによる通信販売もしています。街の界隈でイベントが開かれ、人の流れが出てくると、当店に寄ってくれる方も増えます。気軽にお立ち寄り下さい。



日本医療機能評価機構認定施設

至誠堂総合病院 地域医療連携室

山形市桜町7-44
023-622-7551 (直通)
<http://www.shiseido-hp.jp>
E-mail mail@shiseido-hp.jp
発行責任者 至誠堂総合病院副院長 伊藤 英三
編集 地域医療連携室

編集後記

桜があつという間に散り、新緑が映える季節。今年1年、仕事をがんばるぞー。(K)